

私立大学情報教育協会
平成25年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告
E班 1グループ
グループ名: 養殖うなぎ8切れ

1

発表テーマ

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

2

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

テーマ選定理由(1) 大学の役割

私たちが考えた大学の役割

人材育成・・・将来を担う人材を養成する
地域貢献・・・地域教育における先導的な役割や産官学連携により地域社会へ貢献する
社会貢献・・・研究内容を社会に還元し、学術的・文化的貢献を果たす

役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

- ・さまざまな学びの場を作る
- ・自ら進んで学びたい環境を作る
- ・学生に必要なスキルを身につけさせる
- ・大学の授業を地域の学びたい人へ公開する
- ・時代を切り拓く人材の育成をする
- ・社会や地域に関わられた大学を目指す

3

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

テーマ選定理由(2) 大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

授業外の学習時間の減少
学生が求めているものを大学が把握できていない
学内での取り組み方に温度差がある
目的意識がない消極的な学生が多い

役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？

目的意識を持った積極性のある学生の養成
学生のニーズを活かした大学運営
教員と職員が連携して学生を導く

4

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

大学の役割、大学の現状を踏まえて、何が重要と考えたのか？

目的意識を持たない消極的な学生に対し、大学との関わりの中で様々なことに興味を持ち、自ら考えることができる積極的な学生の育成を行うことが重要であると考えた。



大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

5

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

問題点の深堀

- ・問題解決能力の不足している学生がいる
⇒ 受動的な学生から能動的な姿勢へ変化を促す
- ・コミュニケーション能力が不足している学生がいる
⇒ 他人と関わる機会を作ることでコミュニケーションを取ることを促す
- ・積極的になれる仕組みがない
⇒ 学生が積極的になれるような仕組みや取り組みを設ける
- ・大学行事に参加する学生が少ない
⇒ 正課内・正課外を問わず、大学活動に積極的に参加できる環境を整える
- ・目的意識を持たない学生がいる
⇒ 消極的な学生に対してのサポート体制を充実させる

6

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

解決策の検討

- 大学としての取り組み
アクティブラーニングの導入
学生カルテの導入(自己評価・教員評価等)・・・学生評価システムの導入
学生サポート制度の充実
- 教員への働きかけ
専門知識を習得する(アクティブラーニングの授業方法、学生カルテの使用方法等)
- 職員の役割
教員や学生を巻き込み、様々な交流や情報の周知を促す
学生カルテの構築(教職協働)
- 解決策実現のためのハードルと、その打開策
ハードル:教員の反発、非協力的な学生の出現
打開策:職員主導で粘り強く実行し、少しずつ理解を得る

7

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

大学のイノベーションの提案

- 提案の概要
積極的に大学に関わる学生を育成する
⇒目的意識を持たない消極的な学生に対し、大学との関わりの中で様々なことに関心をもち、自ら考える姿勢を身に付けさせる
- 何を問題として捉えたか
目的意識を持たない消極的な学生が多いため、社会で生き抜く力を身に付けさせる必要がある
⇒社会で生き抜く力・・・社会人基礎力等で求められる能力

8

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

大学のイノベーションの提案

- 問題を解決する方法としての提案と手段
①学生評価システムの導入

提案

入学前から学生に自己評価をさせ、自分の特性を知ることで自分の傾向や状況を把握させる。入学後には、自己の特性と合わせ、授業科目別の達成度や正課内・正課外活動の参加度等も学生が自己評価し、教員やカウンセラー等が評価・チェックすることで学生の自主性を養う。学生カルテ内に評価システムを組み込み、定期的(半期ごと)に行い、目標達成状況を確認する。

手段

教職協働・・・評価項目の設定・ブラッシュアップ、分析結果の利用
 職員・・・システムの構築・運用、学生・教員への周知、結果の分析

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

大学のイノベーションの提案

- 問題を解決する方法としての提案と手段
②アクティブラーニングの導入

提案

学生が参加する授業(授業の感想や小テストの実施)、学生同士が積極的なコミュニケーションを図る授業形態(協同学習やディスカッション等)、e-learningを用いた授業外学習システム等を導入し、講堂内に座っているだけでなく、学生が能動的に取り組む授業を行う。

手段

教職協働・・・FD・SD活動
 教員・・・アクティブラーニングの授業方法の習得
 職員・・・施設や設備の充実化、データ集計

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

大学のイノベーションの提案

- 問題を解決する方法としての提案と手段
③学生同士のサポート

提案

学生アドバイザー(ピアアドバイザー)と学生サポート専門の職員が学生の様々なサポートを行うサポートセンターを設置し、事務局窓口やオフィスアワーで学生が聞きづらい内容に対応し、学生の積極性を養う。

手段

学生・・・学生ボランティアへの参加
 職員・・・サポートセンターの設置、学生ボランティアの募集、学生サポートを行える人材の確保、開催日程等の告知

大学と積極的に関わる学生を育成するための一提案

大学のイノベーションの提案

- 問題を解決する方法としての提案と手段
④アフィリエイト(結びつく)履修システムの導入

提案

学生が目的を持って学べるようにWEBシラバスに履修した科目の関連科目や展開科目を掲載する。また、当該科目を多く受講している学生が受講している科目、教員が受講を薦める科目等を掲載することで積極的な学習を促す。また、合わせて受講した授業の感想を書き込むことで他の学生の結びつきを図る。

手段

学生・・・受講結果の入力
 教職協働・・・積極的な活動を行った学生の選出及び表彰
 教員・・・学生への関連科目や推奨科目の紹介
 職員・・・システムの構築、受講状況の集計結果提供

大学のイノベーションの提案

・解決されたときの姿(どのような状況になれば目的が達成されたといえるのか?)

- ・入学時の自己評価に比べ、各semesterでポジティブな結果を残して学生が卒業する
- ・学生の積極的な参加により、学内行事が盛り上がる
- ・学生のICT活用率が向上する